

る態度を持して、他の多くの所謂迷信教が云爲行動する輕躁なる所爲は、つとめて避けつゝあるが如し。眞に慶すべし。然れども、同教が從來蒙りし迷信教の汚名を洗除し了りて、文明宗教なりとの認識を得んには、前途中々に遼遠ならずんばならず。先づ第一は人物を得ざる可からず、而して人物も、一人や二人にては中々困難なるべし。相當なる知識を有する人、健全なる人物が、同教を徒たるに至らざる可からず。教師養成所の開設、其經營施設の眞面目なるが如き、吾人の大に賛する所、希くば、撓まらず屈せずして、大に其本領を發揮せよ。不幸にして、一切の宗教を信する能はざる吾人は、又黒住教をも信する能はざれども、雄渾崇高なる偉人の追懐が、社會の鹽たることは、吾人の認識して、疑はざる所、所謂「宗忠の袋に入る」は吾人の避けざる可からざるものなるも、彼の偉なる所以を紹介して、多少たりとも世の参考に資せんは、吾人の何時にても

之を辭せざる所なり。本書の出づるも、此意味に由ること、序言中に述ぶるが如し。常に本書が、未知の人々に此隠れたる一偉人を紹介すると共に、黒住教徒に、彼等の教祖は、其思想に於て、其人格に於て、優に一偉人たるを認識せしむるあらば、著者の勞は徒爾ならず。

## 偉人 黒住宗忠 終

附 録

附

録

黒住宗忠咏草及書翰抄

咏草廿九首

○ かきりなき命の本のあらはれし道のはしめに人と成りぬる

○ 千早ふる神世も今もあなし世をみな末の世とあもふあはれさ

○ 日の本に生れなからに日を知らすゑた葉にともすひをかりて見る

○ 有物は皆吹はらへ大そらのなきこそ己かこゝろなりけれ

○ 有無の中に住へきなきものをなきとあもふな無こゝろにて

○ 身も我も心もすてゝ天つちのたつたひとつの誠はかりに

○ 身も我もすてんと思ふ心なる其心をもすてまほしさよ

○ たもつともまたすつるともあもふまじたゝ楽しみ的心ばかりに

○ たのしみも我楽しみとあもふまじたゝ天地の楽しみにして

○ 心とは外にはあらず天地の有無をはなれし中の活物

附 録

附録

天地と共にめぐりし心こそ限りしられぬ命なるらめ

○ 天地の道に迷はぬ心こそ生れすしなぬ心なりけれ

○ 天地の心はちのか心なりほかに心の有とあもよな

また此歌に迷ひ給ふな其心を

○ なきというなきには人の迷ふらんなきこそ有の本の本なり

○ 我われと思ふ我身は天のわれわがものとは一物もなし

○ 我といふ其一物をすてぬればひろき世界は我身なるらん

○ 姿なき心を生けてつかひなば天下にてもみちわたるらん

○ 生死も富も貧苦も何もかも心一つの用ひやうなり

○ 心から生る人こそかしかけれ死る人こそあろかなりけれ

○ 難有やわれ日の本に生れきて其日の中にすむと思へは

○ 天照す神の御腹にすむ時はねてもさめても面白きかな

○ 天照す神の御徳をしる人は日月と共に生通なり

○ 天照す神と人とはへたてなくすぐに神ぞと思ふうれしさ

附録

附録

千早振神のうみ出すうみの子よ親の心をいたましむるな

限りなき神と君との一系をわすれ給ふな人の心に

道の人道をすくにそ行き給へ小道によれば難所なるらん

向ふ事みな御蔭かと思ひなはねてもさめても難有かな

難有き又面白きうれしきとみきをそのふそ誠なりけれ

天照す神の御徳を世の人にのこらす早くしらせたまもの

論道書翰

道の事も益繁榮の趣御座候此御悦び可被爲下候妙は彌あらはれ候

得共此妙も逆も天地の妙也我妙に御座なく候間皆天地の妙也我を

はなれ候事のみ執行仕候病の事は少も苦に成る物に無御座何事も

天に御まかせ被成候はゞ萬事たのしみの外は無御座一切をしへは

てんよりおこる也其をしへ請て日々樂暮こそ信心也

道も彌以繁榮仕難有御事に奉存候此段御歎可被下候奇妙は天地の

奇妙とぞんじ候得共小子なす處計にケ様に妙あらはれ候事難有奉

存候夫に引替萬事の行十が一ツも勤不申候こと時にはせまり呉に

御座候さりながら我心も我身も天地の物なれば何事もしせんのだ

附録

附録

す所也とぞんじ心をやしなひ相暮居申候

何事もく御任可被遊候皆天命に御座候間難有より外は無御座と奉存候幾重もく分別は少もく入用に無是物と相見へ候天道まかせ程世に安心成事は無御座候心安く暮し候こそ高天原と奉存候其原こそ神はましますと奉存候心くもる時はまよひ成迷ひの中には鬼も蛇も居申候誠に恐敷は迷ひ也心明成時は則天照大神我心にあらはれたまひて運をそへたまふ事疑ひ有べからず有がたし

有かたやあら面白やく  
ころの雲のはれ渡る時

身も我も心もすて、天地の

たつた一つの誠はかりに

此心はしれた事には御座候得共まことの本体は天照大神の御心也其有がたき事を一筋におもひ萬事御任申上是にて何事も氣遣いなしと疑ひをはなれ候得ば直に御かけは目の前に顯れ可申候皆人々疑なしとは思ひ候得共苦に成おく病おこり候も皆疑也例の誠は丸事にてすぐに一心一體也かよう申上候も如何と奉存候得共尊君様も小子始て參上仕候時申上候處を少にても御疑被遊候は、乍恐只今は此世には被成御座候事難計奉存候左様候へば彌以天照大神へ御任せ遊し萬事少も御氣遣なしと御定可被遊候此心が今の歌の心に御座候直に其心が誠也

誠に日月四海を照し給ふに少も御苦みなく道は其日月より出たる道に御座候得はつとまらぬと申事無御座候其爲の道に御座候呉々

附録

附録

もたゝ有かたきと申事御忘被遊申間敷候於小子者毎朝一度も忘は仕不申御約束通に仕候時一首

誠候と代に有りかたきものはなし

まこと一つて四海兄弟

御笑ひ草いつもく認候時無念より何成とも氣にうかみ候事を其まゝ相認候

◎

誠に道は六ヶ敷事は少しも無御座候兼々申上候通直に天照大神也さすればいさどうし也晝夜の分知なくいささへすればみな大神の道也たゞ少しの間もゆるみなく穢れぬ様いたし候へば何事も難有事斗時に一首御笑

難有事のみ思へ人はたゞ

けふの尊き今の心の

兼々申上候通我本心は天照大神の分心なれば心の神を大事に仕候得は是ぞ誠の心なりおもへばく心一ツにて自由自在とおもへは此上もたのもしき御事なり

◎

何事もく少も御分別なく天命に御任被遊候處此上も難有御事奉存候時に一首只今侍る

難有中に住ける神々を

猶有かたくおもふ人々

と仕候此人々こそ御守り被遊候哉と奉存候天下に一番と申呉の人たりとも此處わすれ給ふ人は末はつまらぬ物と奉存候

◎

よき事は難有樂み悪敷事有時は執行と奉存候得ば何事も一切執行をもるゝ事無御座候其餘は萬事難有はかり也何事も皆天命を樂時

附録

附録

はもつたひなくも天照大神様のはら也

此間まん心の門人を段々にしめし候處威心いたし神文書改めほつ句一首

立寄て鶯さゝぬ梅の宿  
道執行の心を

登れともまたおほろなり みねの月

といたし小子に道歌一首所望いたしもんもふの小子ゆへとうわく仕候しかし心斗かく侍る

開よりくらきに入よ人心

月は誠の空にこそすめ

といたし候くらきと申心は自身のこと、申心にて誠に少にても我に明り入候とそんし候得は大成まん心也いよく我ちへをすて

信心をいたし候得は其中に誠に有かたき夜の明たることくのことありいよく我ちへをすつるこそ道の道也

◎

何事も道を離れさへ不仕候は悪敷あとは又能事御座候其道はいつ迄も生通也不申上とも道直に生通也其心と我心則一體なれば一心亂れさへ不仕候は限りは無御座候時に一首

天照神の御心我心

ニツなければ死する物なし

◎

道は誠勤安き物也其安き事がつとまらぬものと見へたり其つとめというは道に住事也其道と申は兼々申上る通り天照大神也則九き御神也先便にも申上候通り○支に奉任候者也其任する事安き事也唐も大和も是迄其所が氣の付ぬ事の不思議成る御事也道といふ

附録

附録

こと名に迷ひ誠の道をはなれたる人天下一とう也其道を離ぬが我  
とく所の道也御縁有御人は晝夜共道に住たまふべし少にても道を  
はなれたまふ時は直にあやうき事也御油断あるべからず時に一首

天地にたゞ一筋の其道を

すぐに行こそ樂しかりけれ

誠に／＼一筋のみちが常のみち也その常ほど世に難有事は無御座  
候

◎

毎度道の事御尋被遣先折合居申候古田氏宇三郎など古連以前に立  
戻り其外人ましも不仕候得共一心は立候哉と奉存候人は兎もあれ  
角もあれ我執行大切に奉存候しかし講釋は甚宜敷皆々悦申候先日  
も道歌に

こゝに來て口斗りにてとく道を

耳斗りにて聞給へ人

といたし候心は己か心をはなれてとく時は口斗り也其時何となく  
無心の所か口に出るなり是則天のいはしむるなり又聞く人も耳は  
かりにてきゝ給はゞ誠に一躰なり天地一躰なる時は外に我といふ  
ものなし其時は天心なり少しにても心あらは迷出と奉存候返す返  
すも何事も天地に打任せ望をはなれ執行仕度奉存候

◎

天照大神の御神徳は言を以て難述御事にて候へは難有と申候より  
外無御座候誠の一心に相成生死を離れ神佛諸道の極意を究る事至  
て堅くて至て安く只難有といふ一心に相成

天照大神と一心と一心に相成少しも亂れ不申時は死と申事絶てな  
し是神明一躰にして天地の間に明りの入らざる事更になし外に道  
の執行無御座候人は萬物の靈長たるもの故こゝろのもちひやうに

附録



何になりともなられるものゆゑ心を神にして神の行ひをすれば  
神也心を佛にして佛の行ひをすれば佛なり鬼の心になり鬼の行ひ  
をすれば鬼なり畜生の心になれば畜生なり今何になるとも心のう  
ちに拵候もの出来次第になるなり神道の執行はこゝろに神を拵へ  
神の行ひをすること神道本意なれ望次第に成られるゆへ御汕斷被  
成間敷候

◎

此間もふと一首餘り高尙に御座候得共自然と出候まゝ

千早ふる神代も今も同じ世を

皆末の世と思ふ憐さ

とよみ其講釋仕候古昔の日月も今の日月もいにしへの心も無形今  
の心も無形わか分別をのけてみれば古今の隔なしおほひにすまは  
は大に通す其通すへら心のみにして形を忘るゝ時は今も神代なる

附録

へし今小子講釋いたすとも神世の講釋なり聞人の心も我を離れ給  
ふ時は直に神代なり神世の次第に神徳厚く相成る事とそんし彌難  
有奉存候

道の事御尋越被成委細承知仕候誠に御信心厚く御修行御丹誠と御  
厚志奉成佩候しかし生通しと申事は心も肉體も共に生榮えて參候  
事道の本意に御座候心が活物に候故心活て參候は、形は心に付隨  
ふもの故活榮え參るに限りは無御座ものに御座候第一天道は生々  
にて天地の道には死ると申事は更に無之者に御座候間此所御依得  
被成願くは形諸共御活通しに被成度御事に御座候然れとも我と申  
恐敷もの御座候故我と申者を御捨不被成而は明る支天道御合駈行  
兼候者に御座候間我を離れ難有一心を以て御執行被成度候道は生  
通しに相違無御座候へ共如何様に論し候而も得聞取らざる人尙誠

附録

附録

を不動人は親子兄弟に而もいたし方無御座候ものに候間此所能御合點可被成御事に御座候御道御執心之程は威心仕候へ共理を以て御穿鑿よりは我を離れて誠を勤る事を第一に御執行被成度候我を離れ誠を勤るか即ち活物に御座候此活物を以て天地の活物を呼出しさへ被成候へは自由自在に御徳蒙ふられ候也我を離れ候誠の本體か直に天照大神と御合點可被成候我を離れ候誠は天照大御神と少しも隔なき活物に御座候

限りなき天照る神と我心

隔てなければ生通し也

此歌の場を返すくも御信心被成度御事に御座候

◎

未御座物御直り不被遊よし御難義様と奉違察候歌と申事も存不申

候へ共笑草

雲きりはしせんの風の拂ふ也

無き身をしれはかくの如きそ

乍憚御自身を御自身と不思召天地のものと思ひ給はいたし難有のみに相成り可申候たし今のさやう歌に身の無きと申候は兼ての目付にて無きこそかへつて有なれ天は則無にして則有なり人の心も其通りなり無にして有り彌無きものと被成候は其御心いつまでもさらす心さらすは御身もますく大丈夫なるへし且此靈符宜敷祈念仕候彼形の爲に御頂戴不被成御心の爲に御頂戴可被成候御心さへ自然と御開き被成候は形の上は兎にも角にもに御座候

附録

\* \* \* \* \*

附 録

誠を取外すな  
活物を捉へよ  
陽氣になれ  
我を離れよ  
天に任せよ  
心を大磐石の如く鎮め  
氣分は朝日の如く勇ましくせよ

偉人黒住宗忠附録終

明治四十一年五月十三日印刷  
明治四十一年五月十五日發行

定價金五拾錢

著 作  
所 有  
權

著 者 兼  
發 行 者

木 山 熊 次 郎

東京府下豊多摩郡千駄ヶ谷原宿八十六番地

印 刷 人

佐 久 間 衡 治

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

印 刷 所

英 舍

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

東京府下豊多摩郡千駄ヶ谷原宿八十六番地

内 外 教 育 評 論 社

振替貯金口座番七〇番

發 行 所

324  
84

# 内外教育評論

毎月一回八日發行  
定價部金拾五錢郵稅  
壹錢半前金九拾錢  
壹年前金壹圓八拾錢  
（半年分以上は郵稅當  
方持）

- 教育界全般の報道評論を試むるもの、忌憚なき獨立の意見、教育の行政制度に關する特別の注意、海外教育事情の紹介評論を以て其特長とす。
- 明治四十年十一月の創刊なるも、既に教育界の明星として認識せられ、各新聞雜誌の好評噴々たり。
- 全誌を社説、論說、雜錄、教授管理、講演、訪問、思潮一覽、調査其他、彙報、新刊紹介、中央公文等の諸欄に分ち、毎號清新にして、正確なる材料を以て満つ。
- 我國教育の事業未だ十分の發達を遂ぐる能はずして、早く既に意氣消衰せんと欲す、これ國民全誌が常に重大なる國家的問題として看過す可からざるものなり。
- 本邦教育雜誌の數少からずといへども、多くは初等教育者を目的とするもののみ、國家社會の大局より教育を大觀して、報道評論の任に當る者あるなし。本誌は此任務に向つて常に最も注意を拂ひつゝある唯一の教育評論雜誌なり。

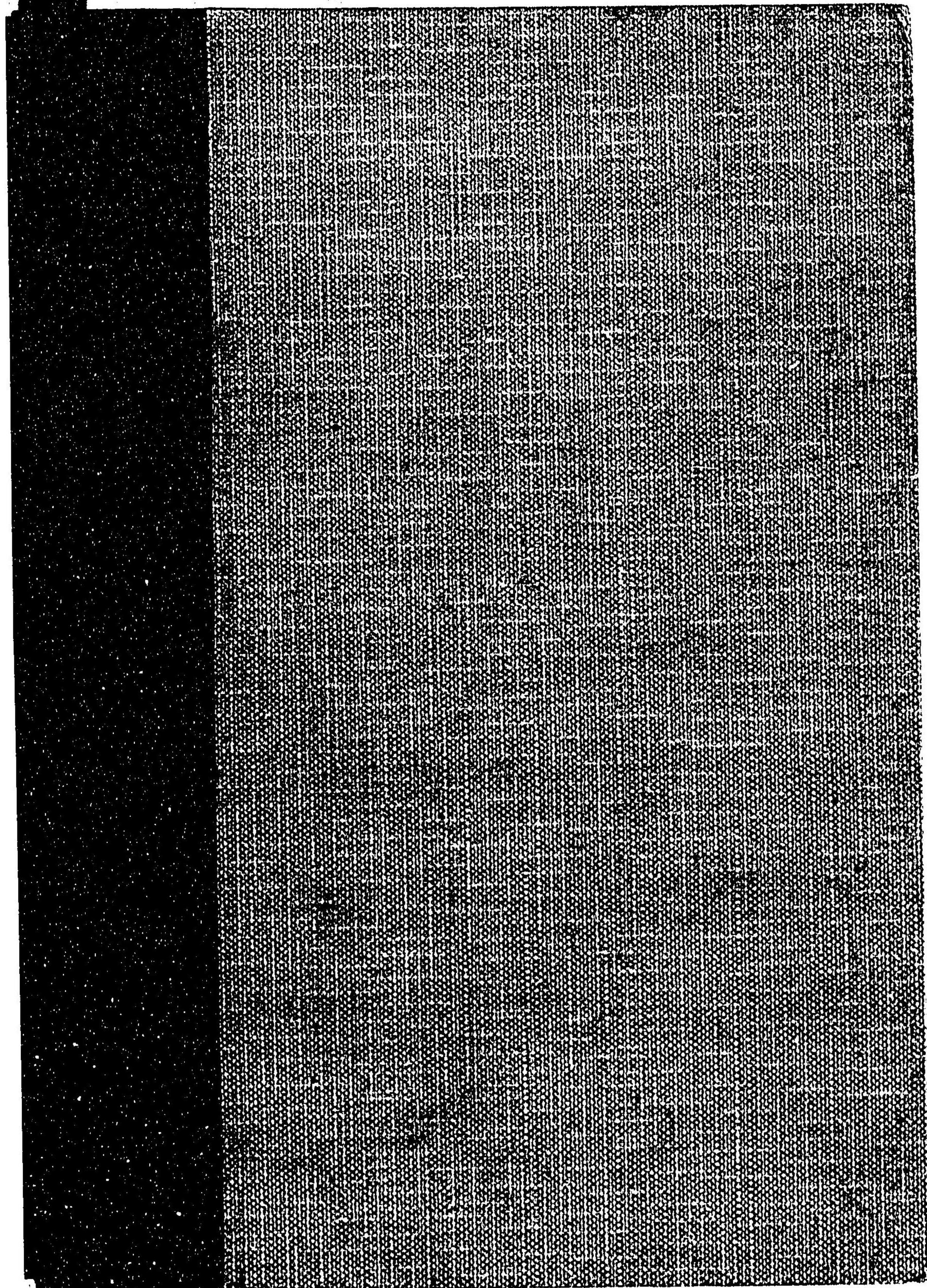
## 發行所

東京府下豊多摩郡千駄（振替 口座）  
ヶ谷町原宿八拾六番地（壹貳七番）

## 内外教育評論社

324

84



013813-000-0

324-84

偉人黒住宗忠

木山 熊次郎/著

M41

ABB-0022



